

令和6年度 第2回倉吉市青少年問題対策協議会

【説明及び協議】

- ・倉吉市小中学生の生徒指導上の実態（問題行動及び長期欠席等）及び倉吉市におけるこれからの不登校対策について

【説明等】

- ・児童相談所から見える生徒指導上の実態及び対応について

○日 時 令和7年2月13日（木）10時30分～12時00分

○場 所 倉吉市役所北庁舎3階A会議室

○内 容

1 開 会

- ・開会あいさつ

2 説明及び協議

- ・倉吉市小中学校の問題行動、長期欠席等の実態について
- ・倉吉市におけるこれからの不登校対策について

3 説明等

- ・児童相談所から見える生徒指導上の実態及び対応について

【主な意見】

〈倉吉市小中学校の問題行動、長期欠席等の実態について〉

- ・コロナの影響なのかは分からないが、コミュニケーションが苦手な生徒が多い実態があるのでは。
- ・学校では、カウンセラーと連携したストレスマネジメントの学習、ソーシャルスキルトレーニング、友だちのよいところ見つけなど、いろいろな取組はしているが、関わりが苦手な生徒が多いと感じる。何が要因なのかは特定できない。
- ・コロナ禍の影響があるとは言い切れないが、時期は重なるという認識はもっている。
- ・相手を嫌な思いにさせないで、自分の思いを相手に納得感をもって受け止めてもらえるようにするか、言葉を選んで表現していくことに不十分さが見られる。
- ・互いの気持ちを考えること。
- ・相手の状況を表情や態度から見抜く力に課題があるのでは。
- ・マスクをしていると、表情の変化が見えない部分がある。
- ・人と生きていくことを避けていくことはできない。
- ・暴力行為といじめについて、対極的な行為と見ることもできる。どちらの数も増えてきているのは、学校は非常に苦慮していると想像する。
- ・アフターコロナの子どもたちの感受性やコミュニケーション能力を、人との関わりの中で、力を伸ばしていくか。ストレスに対処する力、互いを思いやること、アサーションなど。
- ・発生件数の多さは、積極的な認知によるものだという見解がある。現場で、その出来事をどう捉えたのか、その後はどうなのか、追跡していくこともよいのでは。

- ・実態把握の質の向上が実効性のある対策には不可欠だと考える。数の増減レベルからの脱却が必要。例えば、変容の有無別分類、さらに、誰がどう対応したか等詳細の分析を加味していく等により効果的な対策の一例を明らかにできると考える。

〈倉吉市におけるこれからの不登校対策について〉

- ・困り感を抱えている子は多くいる。学校が果たすべき役割は多くある。しかし、30 日以上の欠席日数となると不登校としてカウントされる。その子たちがなぜ、欠席が多いのか要因を考える時に、本人に係る要因と学校に係る要因と、家庭に係る要因が一方であると感じる。
- ・安心して過ごせる場所がない場合、サポート教室で校内に居場所をつくる。そして、教室に戻れるようになる生徒もいる。ただし、保護者も困っているという視点に立てば、保護者の SOS 等の状況を見ると、そこにいる子どもは、しんどさを抱えているのではと感じる。そのあたりも視野に入れる必要があると考える。
- ・以前は、不登校対策において、学校に來れない子どもに対する対応に注力してきたところが、学校に來始めた子ども、改善傾向の状況にある子どもへの対応が、如実に増えている。この点は、これまでと変わってきている点であると感じる。対応が多岐にわたっている認識である。
- ・家庭の状況を学校がつかみ、整理していく中で、要因として、居心地が悪かったり、安心して過ごせなかったりするようなことを抱えながら生活している状況を感じるものが増えてきている。これからの不登校対策の中で、大事にしていく必要があるのではと感じる。保護者の余裕や、精神的、金銭的、子どもとの関わり方、地域との関わり、孤立傾向、身体状況、自分自身にはどうにもできない状況を抱え、不安定な状況が様々な形になって表れ、そのような状況の子どもも多くある。決して、怠けておられるわけではない。親として家庭を支えておられる。そういった家庭にどう関わっていくか。このあたりも以前と変わってきている部分ではないかと考える。
- ・不登校といっても様々な要因がある。
- ・スクールカウンセラーの関わりとして、つながりたいがつながりきれない現状がある。不登校が長期化した時に、どうやってスクールカウンセラーが会うことができるか。その時に、アセスメントやプランニングのあたりに関わるとよいと考えている。
- ・個々の学びを保障するとあるが、誰がするのか。
⇒ 様々なケースがある。担任、担任外、サポート教室の支援員、中部子ども支援センターなど。

「学び」が協調してあり、意図を感じる。

- ・「不登校は学校・家庭・教育界内の問題、対応すべき」との古い認識に一石を投じる方向性が現代の不登校対策には必要と考える。具体的には、福祉部局の関与が必要。社会の複雑化の影は、家庭、親世代（大人）に大きな影響を与えている。権限をもつ関係者の主体的な関与体制の構築が急務である。この点において、倉吉版独自の体制構築が築けると考え、他市町に先駆ける特徴となっていくことを願う。

〈児童相談所から見える生徒指導上の実態及び対応について〉

- ・児童相談所について
- ・相談対応の実態
- ・よりよい連携について など